

平成27年度実施 地方創生交付金事業 評価・検証シート

No.	1	事業名	白川町総合戦略策定事業			所管	企画課 企画係
総合戦	基本目標		施策				
国に提出した実施計画の内容	事業概要			経費内容			
	<p>若年女性減少率「岐阜県内ワースト1」という増田リポートの推計を踏まえ、中山間地の過疎の町が如何にして下げ幅を抑制すべきか、町民との対話により方向性を確認、修正するとともに、専門的な調査を行い、効果的な施策をまとめた「白川町総合戦略」を策定する。</p>			<p>総合戦略策定審議会経費： ・専門家を含めた第三者による審議会の会議経費 ・住民懇談会経費</p> <p>専門的調査実施経費： ・人口ビジョンの分析及び総合戦略策定支援経費 ・住民アンケート実施経費</p>			
	計画事業費	7,400,000 円	交付金 充当額	6,900,000 円	補 足 説 明	委託料が下がったため事業費実績額が下がった。	
	実績事業費	6,157,395 円	交付金 充当額	6,110,000 円			
事業の実施状況	計画に対し、実際には、どのように実施したか	<p>○町長以下職員による「まち・ひと・しごと創生推進本部」を設置 H27.4月 → 総合戦略の“基本目標4本柱”を設定</p> <p>○人口ビジョン及び総合戦略作成支援業務を、(株)OKB総研に業務委託 H27.5/1～H28.1.29 → 意識調査実施 若年層（結婚出産子育て）、中高生（進学就職）、転出者、転入者</p> <p>○産・官・学・金・労・言及び住民、議員による「まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会」を設置 委員22名 6/10、8/18、9/25、11/10、12/4 計5回の委員会を開催 8月18日 意識調査の結果について意見交換 9月25日 人口ビジョン案の提示、とりまとめた事業提案について班別討議 11月10日 総合戦略の概要、掲載予定事業について班別討議、意見集約 12月4日 総合戦略に委員会としての最終判断 パブリックコメント実施 12/11～12/25 町長への答申 12/25</p> <p>○アイデア募集 → 一般住民(8月)、若手町職員ワーキンググループ、戦略委員会委員 → 総合戦略への事業提案として、4本柱別、施策別に、とりまとめ ・提案内容 ・期待される効果 ・問題と課題 ・所管係長のコメントなど →掲載事業として整理</p>					
実績内容	実施した結果、どうであったか <アウト プット>	<p>○意識調査（アンケート） 回答率：若年層：3割、中学生：9割、高校生：4割、転出者：3割、転入者：4割 中高生：町への愛着が強い →できれば住み続けたい→定住につながっていない 満足度高・・・子育て環境充実、自然環境豊か 満足度低・・・公共交通、移動不便、医療、買物、職場や学校が遠い</p> <p>○人口ビジョン(H27.12/1)、総合戦略(H28.1/4) 策定</p> <p>○基本的な視点を定めた。 ①しごとをつくる 内発的産業の創出、育成により地域でのなりわいを作り出す。 ②ひとを育てる 地域で働くための技を伝える支援。地域による児童生徒への地域教育 将来、本町の担い手となる人材を育てる（長期的視点）</p> <p>○実現可能性より夢ある事業を盛り込んだ。 新規事業で骨組みを作り、既存事業で肉付けした。 掲載事業すべてが実施できるわけではない。</p>					

No. 1 白川町総合戦略策定事業 (続き)

		国に提出した実施計画で設定した重要業績評価指標	計画	実績	達成度
この事業のKPI					
	KPI以外の評価ポイント	<p>既存事業に、交付金を充当することを想定して策定した総合戦略ではなく、住民や若手職員の提案（新規事業）が随所に盛り込まれた総合戦略となった。</p>			
	自己分析・自己評価	<p>提案された事業を担当するであろう課・係とのすり合わせの時間が十分とれず、具体的な内容が詰まっていない事業がある。そのため、平成27年度当初予算に計上された新規事業は限定的となった。</p> <p>また、新規事業の財源として期待された新型交付金を充当できる事業も少なく、総合戦略に掲載したものの財源確保の見通しが立たず、実施の目途が立たないものも出てくると考えられる。</p>			
今後の展開方針	B	<p>A:内容を追加するなど、更に発展させる。 B:基本的に現行方針のまま継続する。 C:事業の見直し(改善)して、継続する。 D:事業を継続しない。</p>			
現時点で考えている追加、見直し等の内容	<p>・現時点での総合戦略の見直しは想定していない。</p> <p>・ただし、設定したKPIが施策の評価・検証にふさわしくないと考えられる場合は、KPIの見直しは行う。</p>				
やるならどうやる					
評価・検証委員の意見	特になし				
評価	総合戦略のKPI達成に		<input checked="" type="checkbox"/> 有効であった ・ <input type="checkbox"/> 有効でなかった		
備考					

平成27年度実施 地方創生交付金事業 評価・検証シート

No.	2	事業名	移住・交流推進事業		所管	企画課 地域振興係																
総合戦	基本目標	2. しらかわへ行こう・しらかわへ帰ろう		施策	① 移住やUターンの促進																	
国に提出した実施計画の内容	事業概要			経費内容																		
	<p>近年「ふるさと回帰」の流れが強くなっていることからわかるように、人口流出抑制とともに、移住者支援が人口減少対策の大きな柱となっていることから、これまで他自治体の後塵を拝してきたこの分野において加速度的に推進を図るため、体制を整備し各種の事業を実施する。</p>			<p><u>移住交流サポートセンター運営：</u> ・お試し体験住宅の運営 ・空き家バンクの推進 ・移住希望者への情報発信 ・受入地域との交流、空き家改修（セルフビルド体験等）の企画運営 <u>移住者定住者支援補助：</u> ・賃貸住宅補助、中古住宅購入補助、空き家改修補助、住宅新築補助 ※個人に対する給付 <u>住民による交流人口増加策検討実践費：</u> ・ツーリズム推進協議会（有志集合体）による空き家活用、農林業体験、アウトドア企画の検討及び実践（交付金）</p>																		
	計画事業費	15,400,000 円	交付金 充当額	12,300,000 円	補 足 説 明	概ね予定どおり執行できた。他事業との調整で交付金充当額を増額した。																
	実績事業費	14,860,037 円	交付金 充当額	14,124,000 円																		
事業の実施状況	計画に対し、実際には、いつ、どのように実施したか	<p>○空き家相談士 1 名を配して空き家バンクを運営し、空き家相談、移住相談の窓口を設置した。 白川町移住交流サポートセンター 4月設置（役場企画課内） ・空き家バンク設置・・・空き家の賃貸、売買、管理の相談 ・移住移住相談会の開催・・・都市部での移住相談、本町PR ・田舎暮らし体験住宅オープン・・・町が借りた中古住宅を短期（1～3ヶ月）で賃貸借 ・移住者交流会の開催・・・移住者同士、又は地域住民との交流、親睦</p> <p>○移住者に対し、移住定住推進補助金（中古住宅の家賃、購入、改修の補助）を交付した。</p> <p>○ワールドカフェ開催によりツーリズム推進協議会が設立され、山林を活用した異年齢交流を実施した。 設立されたまちづくり団体の名称・・・みん・まち・美濃白川</p>																				
実績内容	実施した結果、どうであったか <アウトプット>	<p>○サポートセンター相談件数 96件（うち現地案内18件、出張相談会7回20件） ・空き家バンク・・・物件登録21棟、利用登録者数12名 ・空き家・移住相談・・・相談件数96件（うち現地案内18件、出張相談会7回21件） ・田舎暮らし体験住宅・・・利用件数6件、利用者30名、利用日数90日 ・移住者交流会・・・開催回数4回、参加者数 延べ66名</p> <p>○移住定住促進補助金の交付 (計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>・中古住宅家賃補助</td> <td>・・・ 3件</td> <td>204千円</td> <td>7件</td> </tr> <tr> <td>・中古住宅購入補助</td> <td>・・・ 3件</td> <td>1,575千円</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>・中古住宅改修補助</td> <td>・・・ 2件</td> <td>1,000千円</td> <td>3件</td> </tr> <tr> <td>・新築住宅取得補助</td> <td>・・・ 4件</td> <td>3,550千円</td> <td>5件</td> </tr> </table> <p>○ツーリズム推進協議会 ・空き家とツーリズムを語る会（ワールドカフェ）の開催・・・6回 ・みん・まち・美濃白川の誕生・・・山っこひろば（体験事業）開催2回、参加者 延べ80人</p>					・中古住宅家賃補助	・・・ 3件	204千円	7件	・中古住宅購入補助	・・・ 3件	1,575千円	1件	・中古住宅改修補助	・・・ 2件	1,000千円	3件	・新築住宅取得補助	・・・ 4件	3,550千円	5件
・中古住宅家賃補助	・・・ 3件	204千円	7件																			
・中古住宅購入補助	・・・ 3件	1,575千円	1件																			
・中古住宅改修補助	・・・ 2件	1,000千円	3件																			
・新築住宅取得補助	・・・ 4件	3,550千円	5件																			

No. 2 移住・交流推進事業 (続き)

		国に提出した実施計画で設定した重要業績評価指標	計画	実績	達成度
この事業のKPI		サポートセンターを通した移住件数	3件	7件	223%
		移住支援補助の利用件数	7割/予定数	12件/16件	75%
		体験事業の参加人数 1企画ごとに10人	10人/企画	40人/企画	400%
KPI以外の自己分析・自己評価ポイント	プラス要素	<ul style="list-style-type: none"> ・移住希望者のワンストップ窓口が設置されたことで、白川町への来訪者が増えた。 ・移住者と地域住民との交流により、自分たちの地域を見直す住民の方が増えている。 			
	マイナス要素	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介（入居可能）できる空き家件数が不足しており、移住希望者の要望に応えることができない。 			
今後の展開方針	A	A:内容を追加するなど、更に発展させる。 B:基本的に現行方針のまま継続する。 C:事業の見直し（改善）して、継続する。 D:事業を継続しない。			
現時点で考えている追加、見直し等の内容 やるならどうやる	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家の改修塾を新たに行い、移住促進、空き家利活用を推進する。 ・空き家とセットとなる仕事情報の充実を図る。 ・移住（Iターン）者向け補助と同様に、Uターン者や若年世帯の転出抑制を目的とした住宅改修（取得）補助も加えて、移住・定住・転出抑制の補助制度をわかりやすくするため一本化する。 ・サポートセンターを、移住、受入れのサポートに加え、コミュニティビジネスの推進窓口の機能を持った組織に拡充していく。 				
評価・検証委員の意見	Q.マイナス要素への対策は？ A.対策としては、恵那市の事例にあるような「空き家の改修塾」の実施を考えている。施主中心に要望・設計に基づいて参加者募集予定。H27年度も計画はあったが施主との交渉がうまくいかず実現できなかった。まずは、体験住宅の改修をする。サポートセンターは将来的にはNPOに移行する予定であり、ここがまず買って改修して、また貸しや売却することも考えている。 <ul style="list-style-type: none"> ・空き家について、どう機能させられるか？もっと活用に向けて交渉して欲しい。 ・(空き家という)移住希望者の受け皿がないのは問題。ミスマッチ解消に努めて欲しい ・岐阜県は移住事業に力を入れている。中でも恵那には先進事業がある。NPO化はすぐには難しいと思うが。県、他市町村事例を参考に、地域のリソースを掘り起こして魅力あるまち作りをやって欲しい。 				
評価	総合戦略のKPI達成に		<input checked="" type="checkbox"/> 有効であった ・ <input type="checkbox"/> 有効でなかった		
備考					

平成27年度実施 地方創生交付金事業 評価・検証シート

No.	3	事業名	記憶に残す白川の里事業			所管	企画課 企画係
総合戦	基本目標	2. しらかわへ行こう・しらかわへ帰ろう 3. しらかわ人（びと）を育み しらかわを未来に伝える			施策	② 交流人口の拡大・白川ファンの増加 ① 地域人材の育成・地域教育の充実	
国に提出した実施計画の内容	事業概要			経費内容			
	今年度実施した住民懇談会での対話の中から「少年時代の自然と親しむ実体験が多いほど、大人になってもふるさとを愛する気持ちが強くなる」と言った声が多くあったことから、子ども達にふるさとの自然が強く記憶に残るような体験をさせ、将来のまごターンやUターンにつなげる。			まご・まご・ふるさと留学事業： ・町内に祖父母がいる町外の小学生（孫）が、夏休みに山村留学し体験学習を行う。 清流白川への回帰事業： ・町内小学生に、伝統行事、遊びをととした体験活動を行い、成長後に白川への回帰意識の呼び戻しをおこさせる（深層心理への意識付け） ・2事業まとめて委託業務とする。（プログラム作成、スタッフ経費、諸費）			
	計画事業費	2,000,000 円	交付金 充当額	1,600,000 円	補 足 説 明	他事業との調整により充当額を変更した	
	実績事業費	1,907,454 円	交付金 充当額	1,906,000 円			
事業の実施状況・実績	計画に対し、実際には、いつ、どのように実施したか	<p>○まごまごふるさと体験教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報しらかわ6月号に参加者募集チラシを折り込み、町内祖父母等から申込んでもらった。 ・委託先（株）白川夢花火工房 町内のイベント企画会社の育成を考慮して選定 強烈な体験の方が、より強烈な記憶として残る という考え方で、企画作成を依頼した。 <p>8月20日 飛騨美濃特産名人の館「茶・ちゃ・チャ」にて、美濃白川茶の手揉み体験 おいしいお茶の入れ方を教わる。出来上がった手もみ茶は祖父母へのおみやげにクオーレの里に移動し、花火師指導のもと、子ども用手筒花火を体験</p> <p>8月21日 川でラフティングボートの体験、道の駅温泉で汗を流して解散 ※宿泊は祖父母宅</p> <p>8月22日 クオーレの里で、ツリークライミング、クラフト工作、炭焼き体験</p> <p>○清流白川への回帰事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人美濃白川どんぐり会が主催で年間計画に基づき行う事業に、組み込んでもらう形で、委託業務として実施 ・山と水に親しむ機会を設け、森の保全・育成と水環境を守ることの大切さを考えさせるとともに、各種体験活動をとおして、ふるさと白川を愛する心の育ちを促し、参加した子どもが成長後に、白川への回帰意識を呼び起こすような意識付けをねらった。 <p>5/30、31、6/27、7/25、8/11、29、9/26、10/17、11/14、2/27、3/12 計11日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落葉樹の植林 ・水源地の見学 ・カゲラウオッチング ・森の健康度調査 ・原木シイタケ菌打ち 					
実績内容	実施した結果、どうであったか	<p>○まごまごふるさと体験教室 委託料 1,347,300 円</p> <p>参加者12人 3日間の延べ人数35人 参加した子ども、預かった祖父母、送り出した保護者 それぞれにアンケート実施 子どもの満足度は80～100% 8人が100%と回答 祖父母、保護者の満足度は80～200%と回答 「3日間とも、なかなか体験できない事ばかりで、とてもよかった」</p>					
	<アウトプット>	<p>○清流白川への回帰事業 委託料 538,920 円</p> <p>総参加者数393人（大人249人、子ども144人） うち該当事業に参加した子ども61人</p>					

No. 3 記憶に残す白川の里事業 (続き)

		国に提出した実施計画で設定した重要業績評価指標	計画	実績	達成度
この事業のKPI		参加した町外小学生(孫)の数	20人	12人	60%
		参加した町内小学生の数	20人	61人	305%
KPI以外の自己分析・自己評価ポイント	プラス要素	まごまご事業は、H27の新規採用職員1人(神奈川県)、地域おこし協力隊2人(愛知県)は、町内に祖父母がいる孫ターンで、子どもの頃のふるさと体験が影響したという話から着想した事業であり、今回の事業効果も形となるのは10年以上先であるが、子ども、保護者、祖父母の感想から、それなりの効果があったと認識している。3日間連続で体験、夜は祖父母に出来事を話す時間があるなど、企画自体は新しくおもしろいものだった。 また、両事業とも、イベントの企画運営ができる“町内事業者の育成・実績作り”につながる機会にもなったと考える。			
	マイナス要素	まごまご事業は、1人当たり経費が高くなった。募集告知で企画内容が十分伝わらず応募者が少なかったこと、初めての試みで安全配慮のためスタッフを多めに配置するなど委託料に占める人件費が高額となったのが大きな要因。 清流回帰事業は、当初は伝統文化や地域の風習に触れる体験活動を企画したかったが受託先がなく、どんぐり会の年間事業(既存の活動)にタイアップする形とせざるを得なかった。どんぐり会に全面的に委託したので事務的負担は少なかったが、ねらい(伝統風習の体験からふるさと愛醸成)からずれてしまった感がある。			
今後の展開方針	C	A:内容を追加するなど、更に発展させる。 B:基本的に現行方針のまま継続する。 C:事業の見直し(改善)して、継続する。 D:事業を継続しない。			
現時点で考えている追加、見直し等の内容 やるならどうやる	<ul style="list-style-type: none"> ・国の交付金対象とならなくても継続実施する。 ・事業の効果がわかるのは10年以上先。 教育部門の専門的知識を活かすべきでは？(まごまご事業) ・体験メニューを工夫して、高額なメニューから低額なものに移行していく。(アンケートを参考に) ・実績を積みば適正な人員配置が可能となり、余分な人件費は削減できる。それまでは安全重視(清流回帰) ・伝統文化や地域の風習に触れる体験活動を企画できる受託先を見つけて、移行していく。 ・平成28年度は前年同様の委託となるが、平成29年度に向けて委託先を探していく。 				
評価・検証委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・“まごまご”事業は人気があるが、町内に祖父母のいない移住者の子供も参加対象として検討して欲しい。 ・ふるさと教育の部分は、地域のボランティア団体などにもっと呼びかけてはどうか ・まごまご、経費高過ぎ。丸投げではなく、町内の人智を活用してもっと良いアイデアあるのでは？地域力を生かし、活力ある高齢者の協力を。 				
評価	総合戦略のKPI達成に		<input checked="" type="checkbox"/> 有効であった ・ <input type="checkbox"/> 有効でなかった		
備考					

平成27年度実施 地方創生交付金事業 評価・検証シート

No.	4	事業名	地域人材ふるさと定着促進事業(奨学金補助)		所管	企画課 企画係																																																									
総合戦	基本目標	2. しらかわへ行こう・しらかわへ帰ろう		施策	① 移住やUターンの促進																																																										
国に提出した実施計画の内容	事業概要			経費内容																																																											
	奨学金受給資格のある人材を町内に呼び戻す効果と将来の雇用に対する不安から奨学金の返済額を抑えるため十分な奨学金を借りていない学生がいることを想定し、卒業後に町に戻れば奨学金返済の負担が軽減される制度により、能力に見合う十分な奨学金を借りてもらえるようにする。借入時に予約させることで数年後の利用見込を立てる。			<u>奨学金返還金助成：</u> ・白川町出身者が大学、短大、専門学校等卒業後、町に戻り居住した場合に奨学金の返還を5年間に渡り助成する。 ・対象となる奨学金は、日本学生支援機構、地方公共団体、民間育英団体、大学等独自制度など 15千円×12月 ※個人に対する給付 ・国が検討中の減免制度と重複して実返還額を超えないよう調整する。																																																											
	計画事業費	3,600,000 円	交付金 充当額	2,800,000 円	補 足 説 明	1人当たりの補助額を下げた。20人分の予算に対し実績は10人だった。																																																									
	実績事業費	1,200,000 円	交付金 充当額	1,080,000 円																																																											
事業の実施状況	計画に対し、実際には、いつ、どのように実施したか	○前年度に返済した奨学金の返還金を、最大12万円まで補助する制度とした。 H26.4月以降に、奨学金を返済開始した又は転入した者が条件 ○対象者は、白川町出身に限らず、白川町内に転入した20代の若者とした。 住所があり実際に生活していること。勤務地は町外でもOK 町内に住所を置いたまま転出し大学卒業後、Uターンして就職した場合なども対象とする。 ○毎年、前年度の返還実績を付けて申請必要。最長10年間補助する。 制度開始前に転入（返済開始）した者との均衡を図るため、それらも29歳までは対象とする。 ○町のHP、広報しらかわで周知した。 ○当初想定していた国の奨学金支援制度との調整は、動きがなかったので、考慮しなかった。																																																													
実績内容	実施した結果、どうであったか <アウトプット>	○H27年度中の補助対象者 10人 <table border="1"> <thead> <tr> <th>性別</th> <th>千円</th> <th>勤務地</th> <th>年齢</th> <th>対象期間</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 女</td> <td>120</td> <td>下呂市</td> <td>24歳</td> <td>29歳まで</td> <td rowspan="10">新卒者の申込みはなく、ほとんどが既に返済中の者からの申請だった。 いずれも白川町出身者（大学卒業後Uターンし自宅から通勤）であり、Iターン者からの申請はH28,7月現在で0件の状況。</td> </tr> <tr> <td>2 男</td> <td>120</td> <td>七宗町</td> <td>26歳</td> <td>10年間</td> </tr> <tr> <td>3 男</td> <td>120</td> <td>町内</td> <td>24歳</td> <td>29歳まで</td> </tr> <tr> <td>4 男</td> <td>120</td> <td>町内</td> <td>25歳</td> <td>29歳まで</td> </tr> <tr> <td>5 男</td> <td>120</td> <td>町内</td> <td>26歳</td> <td>29歳まで</td> </tr> <tr> <td>6 男</td> <td>120</td> <td>町内</td> <td>26歳</td> <td>29歳まで</td> </tr> <tr> <td>7 男</td> <td>120</td> <td>可児市</td> <td>25歳</td> <td>29歳まで</td> </tr> <tr> <td>8 男</td> <td>120</td> <td>町内</td> <td>26歳</td> <td>29歳まで</td> </tr> <tr> <td>9 女</td> <td>120</td> <td>町内</td> <td>25歳</td> <td>29歳まで</td> </tr> <tr> <td>10 男</td> <td>120</td> <td>下呂市</td> <td>27歳</td> <td>29歳まで</td> </tr> </tbody> </table>					性別	千円	勤務地	年齢	対象期間		1 女	120	下呂市	24歳	29歳まで	新卒者の申込みはなく、ほとんどが既に返済中の者からの申請だった。 いずれも白川町出身者（大学卒業後Uターンし自宅から通勤）であり、Iターン者からの申請はH28,7月現在で0件の状況。	2 男	120	七宗町	26歳	10年間	3 男	120	町内	24歳	29歳まで	4 男	120	町内	25歳	29歳まで	5 男	120	町内	26歳	29歳まで	6 男	120	町内	26歳	29歳まで	7 男	120	可児市	25歳	29歳まで	8 男	120	町内	26歳	29歳まで	9 女	120	町内	25歳	29歳まで	10 男	120	下呂市	27歳	29歳まで
性別	千円	勤務地	年齢	対象期間																																																											
1 女	120	下呂市	24歳	29歳まで	新卒者の申込みはなく、ほとんどが既に返済中の者からの申請だった。 いずれも白川町出身者（大学卒業後Uターンし自宅から通勤）であり、Iターン者からの申請はH28,7月現在で0件の状況。																																																										
2 男	120	七宗町	26歳	10年間																																																											
3 男	120	町内	24歳	29歳まで																																																											
4 男	120	町内	25歳	29歳まで																																																											
5 男	120	町内	26歳	29歳まで																																																											
6 男	120	町内	26歳	29歳まで																																																											
7 男	120	可児市	25歳	29歳まで																																																											
8 男	120	町内	26歳	29歳まで																																																											
9 女	120	町内	25歳	29歳まで																																																											
10 男	120	下呂市	27歳	29歳まで																																																											

No. 4 地域人材ふるさと定着促進事業(奨学金補助) (続き)

この事業のKPI	国に提出した実施計画で設定した重要業績評価指標		計画	実績	達成度
	制度の利用者		5人	10人	200%
KPI以外の自己分析・自己評価	プラス要素	<p>国では給付型奨学金制度の導入を検討するなど、奨学金の支援制度の拡充が進む中、いち早く支援を開始したことは先駆性が高い。</p> <p>白川町出身の若者には、地元就職、自宅から通勤を選択する際のメリットとしてアピールできる制度であると考えている。(Uターンと転出抑制には効果あり)</p>			
	マイナス要素	<p>毎年申請が必要であるが、最長10年間で合計120万円の補助となる。</p> <p>一度認定された者は翌年度以降は継続申請があるとすれば、事業費は年々増加を続けることになる。平成28年度からは町単独事業となったので、財源確保の負担が大きい。</p> <p>奨学金返済支援があるから、白川町に住んで働く若者の獲得にはつながるかは疑問 (Uターンによる人口増には効果は疑問)</p>			
今後の展開方針	B	<p>A:内容を追加するなど、更に発展させる。 B:基本的に現行方針のまま継続する。 C:事業の見直し(改善)して、継続する。 D:事業を継続しない。</p>			
現時点で考えている追加、見直し等の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・国の交付金対象とならなくても継続実施する。 ・H28年度中の制度の見直しは検討していない。支援額を増額すれば利用者増(人口増)により効果があるのか、議論の余地あり 				
やるならどうやる	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税などを財源にしていく。 				
評価・検証委員の意見	特に意見なし				
評価	総合戦略のKPI達成に		<input checked="" type="checkbox"/> 有効であった ・ <input type="checkbox"/> 有効でなかった		
備考					

平成27年度実施 地方創生交付金事業 評価・検証シート

No.	5	事業名	定住推進事業			所管	企画課 企画係
総合戦	基本目標	4. しらかわで あんきに子育て あんきに暮らす		施策	② 生活基盤の見直し・整備・拡充		
国に提出した実施計画の内容	事業概要			経費内容			
	<p>統廃合で町内から高校が無くなり、高校生は下宿アパート又は遠距離通学を余儀なくされ家計への負担も増大している。近年では「子どもにアパートを借りるならこの際」と、子どもの高校入学を機に親子で転出する世帯が現れてきたことから、子どもの通学費を助成することで町内での生活の負担軽減を図り世帯転出を抑制する。</p>			<p>高校生鉄道通学費補助： ・自宅通学する高校生について鉄道定期券購入費用の一部を助成する。 年間1人につき2万円 ※個人に対する給付</p>			
	計画事業費	4,000,000 円	交付金 充当額	3,200,000 円	補 足 説 明		
	実績事業費	3,106,150 円	交付金 充当額	3,106,000 円			
事業の実施状況・実績内容	計画に対し、実際には、いつ、どのように実施したか	<p>○白川町高等学校通学費補助金</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年4月1日～平成28年3月31日までに、高校通学用に購入したJR定期券代金の内、2万円を上限に補助金を交付。 ※ただし、補助金の対象となる定期券はJR白川口駅で購入したものに限り。 ・申請は、JR白川口駅で定期券購入時に駅職員から渡される購入証明が記載された申請書に必要事項を記入して役場に提出する。 					
	実施した結果、どうであったか <アウトプット>	<p>○平成27年度は、158件の申請に対し3,106,000円を交付。</p>					

No. 5 定住推進事業 (続き)

		国に提出した実施計画で設定した重要業績評価指標	計画	実績	達成度
この事業のKPI		高校生の転出数 ※中学卒業を機に転出	3人	2人	150%
KPI以外の自己分析・自己評価	プラス要素	①これまで、高校通学費に対する補助金がなかったため、補助金があることで子育てに関する経済的負担による不安感を軽減した。 ②白川口駅の定期券販売数の増加 H27 15,196千円 H26 11,908千円 (+3,288千円)			
	マイナス要素	事業の周知を始めたのが前年度末だったため、学校によっては新入生に対する入学説明会で定期券の美濃太田駅での事前購入手続きが実施されており、当初購入分を白川口駅での購入につなげられなかった。			
今後の展開方針	B	A:内容を追加するなど、更に発展させる。 B:基本的に現行方針のまま継続する。 C:事業の見直し(改善)して、継続する。 D:事業を継続しない。			
現時点で考えている追加、見直し等の内容 やるならどうやる	①補助事業と合せて、白川口駅での乗車券類の販売が駅の維持につながることを周知し、白川口駅の販売数の増加を図る。 ②事業が継続される場合、補助されることが当たり前という意識になってしまわないように、何のために支援をしているのかを繰り返し意識してもらえる働きかけが必要。(補助金交付決定通知書に、白川口駅の乗車券類の売り上げに対しての手数料収入により維持されていることを記載するなど)				
評価・検証委員の意見	・高校生への助成金は続けて欲しい。				
評価	総合戦略のKPI達成に		<input checked="" type="checkbox"/> 有効であった ・ <input type="checkbox"/> 有効でなかった		
備考					

平成27年度実施 地方創生交付金事業 評価・検証シート

No.	6	事業名	外国人にやさしい観光振興事業			所管	企画課 商工観光係 企画係
総合戦	基本目標	2. しらかわへ行こう・しらかわへ帰ろう		施策	② 交流人口の拡大・白川ファンの増加		
国に提出した実施計画の内容	事業概要			経費内容			
	外国語表記による案内表示や観光パンフレットの作成及びホームページ作成により外国人にやさしい観光地を目指す。 合わせて観光施設で無料公衆無線LANを整備し、外国人観光客の利便性向上を図る。 更に特典制度を活用しWiFi利用者から現地での情報発信を誘導し、観光客全体の増員をねらう。			観光情報発信者特典： ・整備したWiFiを利用し、その施設や町の観光情報を発信してくれた旅行者等に特典（ふるさと名品等）を贈る。 外国人観光客向け観光表示の充実化：外国語表記の案内表示やパンフレット及びホームページの作成 無料公衆無線LAN整備： ・アウトドア施設、道の駅、JR駅付近（町の玄関） 計3箇所に設置			
	計画事業費	5,000,000 円	交付金 充当額	4,154,000 円	補 足 説 明		
	実績事業費	4,194,404 円	交付金 充当額	4,090,000 円			
事業の実施状況	計画に対し、実際には、いつ、どのように実施したか	○観光情報発信者特典事業 町内の道の駅（美濃白川、清流白川クオーレの里）を訪れ、レストランや売店を利用した者がSNS（FacebookやTwitterなど）を使って、施設をPRした場合に、当施設の利用割引券（1,000円相当）を贈呈する事業を平成27年8月から始める。 外国語版ホームページを平成29年2月1日から開設し、町内のイベントや旅館をPRしている。また、外国人向けの観光パンフレット(英語版)を20,000部印刷し、町のマップやオススメスポット、飲食店などを掲載し、町の観光PRを行っている。 ○無料公衆無線LAN整備 H27.9/8~12/15 2,149,200 円 物品購入入札により、(有)白川オフィス・オートメーションと契約					
	実施した結果、どうであったか <アウトプット>	○観光情報発信者特典事業 SNSを使って、施設をPRしていただいた方は、66名であった。今年度も当特典事業を継続し実施している。 外国語版ホームページは、月平均で8人、各国からのアクセスがある。特に、イベントカレンダーの閲覧が多い結果となっている。 ○無料公衆無線LAN整備 白川口駅、クオーレふれあいの里（キャンプ場内）、さかなワクワク公園道の駅美濃白川（ピアチエーレ） 計4箇所に設置 キャンプ場については閑散期の設置となってしまった。					

No. 6 外国人にやさしい観光振興事業 (続き)

		国に提出した実施計画で設定した重要業績評価指標	計画	実績	達成度
この事業のKPI		観光施設利用者による情報発信件数	100件	66件	66%
		外国人観光客の宿泊人数	50人	0人	-
KPI 自己分析・自己評価	プラス要素	観光情報を入手する方法は、HPで検索する、イベントチラシを見る、親せきや友人から紹介されるなどが挙げられる。 常に観光情報を町外に発信する手段として、SNS情報発信者への特典事業は大いに期待できる。			
	マイナス要素	白川町は外国人が頻繁に訪れる場所ではない。 KPI設定がよくない。「外国人観光客の宿泊人数」は、クオーレの里の宿泊者をカウントする計画としたが、公共交通網が不十分(駅からの足がない)なので、来訪者は自動車利用(岐阜・名古屋近辺在住外国人)がほとんどと考えられ、インバウンド対策の効果検証には向いていないことがわかった。			
今後の展開方針	B	A:内容を追加するなど、更に発展させる。 B:基本的に現行方針のまま継続する。 C:事業の見直し(改善)して、継続する。 D:事業を継続しない。			
現時点で考えている追加、見直し等の内容 やるならどうやる	基本的に現行方針のまま継続する予定である。 外国人に白川町を選んでもらう、来てもらう色々なPR方法を実践しなければならない。 観光者をターゲットにしたwifi設備整備は、H27事業で一区切りとし、他の観光施設、場所への普及は今後のニーズ等をみて判断していきたい。				
評価・検証委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・海外を視野に入れるなら、バイヤーに泊って頂くことも含めて総合的に考えて欲しい。 ・高山が観光地として有名だが、必ずしもみんな高山に泊る訳ではない。美濃加茂に泊って高山に行く例もあるようだ。外国人(米国など)にとって、1~2時間の車移動はたいした距離ではない。宿泊するところがあれば…情緒・コストetc.何か売りがあれば、泊ってもらえると思う。 ・案内板表示は。フォントなど統一して欲しい。白川町はいわゆる観光地というよりは体験型の場所と思う。 ・インドネシアの棚田観光の例。高原の傾斜地は珍しいので観光資源となると思う。 				
評価	総合戦略のKPI達成に		<input checked="" type="checkbox"/> 有効であった ・ <input type="checkbox"/> 有効でなかった		
備考					

平成27年度実施 地方創生交付金事業 評価・検証シート

No.	7	事業名	女性のチャレンジ支援事業		所管	企画課 企画係
総合戦	基本目標	1. しらかわの宝ものをしごとに変える		施策	② 挑戦できる場の提供	
国に提出した実施計画の内容	事業概要			経費内容		
	<p>本町では企業誘致や既設事業者の雇用増の期待が見込めない現状であることから、田舎で暮らす女性達が小さくても自らの手で稼げるものを見つけられるよう、知識の習得と実践（失敗を恐れないチャレンジ）を支援する。</p>			<p>女性起業講座開催： ・座談会等を通して起業講座の活用を宣伝し、個人や団体から講座開催希望があった場合に、講座を開催する。</p> <p>スモールビジネスチャレンジ交付金： ・講座受講にとどまらず、自らのアイデアを元にした小さなビジネスを実践し経験を積んでもらう。 ・女性グループへの交付金とする。</p>		
	計画事業費	800,000 円	交付金 充当額	500,000 円	補 足 説 明	他事業との調整により交付金充当額を増額
	実績事業費	708,160 円	交付金 充当額	708,000 円		
事業の 計画に対し、実際には、どのように実施したか 実績内容	事業の 計画に対し、実際には、どのように実施したか	<p>○女性起業講座 当初は、乳幼児学級等に出向き、若年女性の声を聴き、要望に合わせて講座内容を決める計画であったが、気楽に参加してもらい、対話の中からの「気づき」を通して、起業意欲の芽生えにつなげる方法に変更した。 → 輝く女性たちのワールドカフェの開催</p> <p>○スモールビジネスチャレンジ交付金</p>				
	実施した結果、どうであったか <アウトプット>	<p>新しいつながりができた。 想いを同じくする有志がグループを結成した。 チャレンジ交付金を活用して、活動を開始した。（3団体）</p> <p>9月30日 水 11人 サポートスタッフ（有志）でワールドカフェ 10月9日 金 15人 参加者によるワールドカフェ 10月24日 土 10人 "（2回目） 12月6日 日 17人 参加者によるOST（起業プラン作成）</p> <p>① つながる女性カフェ美濃白川・・・女性の起業や社会参画を支援、起業支援講座自主開催 ② 白川womenものづくり工房・・・町内の自然素材を使った押し花製造販売 ③ カフェ ルーエ・・・子育てママがスイーツ工房立ち上げ、社協主催高齢者教室などで出張カフェ開催</p>				

No. 7 女性のチャレンジ支援事業 (続き)

		国に提出した実施計画で設定した重要業績評価指標	計画	実績	達成度
この事業のKPI		講座参加者数	20人	42人	210%
		スモールビジネス活動参加者数	10人	26人	260%
KPI以外の自己分析・自己評価	プラス要素	ワールドカフェをとおり、参加者の中に多くの気づき生まれ、お互いの想いを知ることができた。参加した女性のアイデアの多さや着眼点のおもしろさに、これまでにない事業展開の可能性を感じた。行政からの働きかけをしなくても、参加者のネットワークを通じて、グループの立ち上げがどんどん進んでおり、白川町の女性の豊富な潜在能力に驚いている。			
	マイナス要素	年度後半からのスタートだったため、グループ立ち上げから、交付金を活用した事業の着手・完了までの期間が十分にとれなかった。			
今後の展開方針	A	A:内容を追加するなど、更に発展させる。 B:基本的に現行方針のまま継続する。 C:事業の見直し(改善)して、継続する。 D:事業を継続しない。			
現時点で考えている追加、見直し等の内容 やるならどうやる	<ul style="list-style-type: none"> ・単独事業として、継続していく。 ・行政として、「学ぶ場(機会)」「つなぐ場(機会)」「挑戦の場(機会)」を適切に提供できれば、行政がルールを引かなくても自走するという良事例となった。 ・女性の社会参画を支援するのが目的の団体もできたので、将来的には女性起業講座の企画運営をこうした団体に委託することも検討したい。 				
評価・検証委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・スモールビジネスチャレンジの資金確保として、クラウドファンディング活用も取り込んでいけるとよい。ビジネス成立の試験にもなる。 				
評価	総合戦略のKPI達成に		<input checked="" type="checkbox"/> 有効であった ・ <input type="checkbox"/> 有効でなかった		
備考					

平成27年度実施 地方創生交付金事業 評価・検証シート

No.	8	事業名	美濃白川茶の国内・海外販路開拓事業			所管	農林課 農務係
総合戦	基本目標	1. しらかわの宝ものをしごとに変える		施策	① 地域支援（緑）を活用した産業振興		
国に提出した実施計画の内容	事業概要			経費内容			
	町民誰もが町の特産品と認める「美濃白川茶」について、従来路線とは異なる販路拡大戦略を展開する。和茶が人気の海外での販売を視野に入れ、地方創生を契機とし関係者一丸となり強力に推進し、特産品の生産、製造、販売に関わる従事者の生活安定につなげる。			<u>海外販路開拓事業：</u> ・姉妹都市提携30年余の歴史があるイタリ（ピストイ市）を販売窓口として、EU諸国での販路開拓を実施 <u>アンテナショップ活用：</u> ・健康志向の高い販売層への対面販売等の機会を増やし販売量の増加につなげる。 ・茶振興団体への交付金とする。			
	計画事業費	2,000,000 円	交付金 充当額	1,600,000 円	補 足 説 明		
実績事業費	2,000,000 円	交付金 充当額	2,000,000 円				
事業の実施状況	計画に対し、実際には、いつ、どのように実施したか	H27.7 日本貿易振興機構（ジェトロ）と契約 H27.12 「おちゃらか」代表 ステファン・ダントンお茶講演会 H28.1 日本貿易振興機構とマレーシア商談会 H28.2 （株）コイケとの契約交渉 H27 名古屋「栄」 オアシス2 1での試飲実演					
	実施した結果、どうであったか <アウトプット>	H27.9 東京日本橋「おちゃらか」と販売契約締結 月平均9万円の販売額 H28.3 （株）コイケとの販売契約締結 第1便の送付 20kg程度 日本百貨店との販売契約締結					

No. 8 美濃白川茶の国内・海外販路開拓事業 (続き)

この事業 のKPI	国に提出した実施計画で設定した重要業績評価指標		計画	実績	達成度
	商談会の開催数		3回	2回	66%
	消費拡大イベント開催件数		3回	6回	200%
KPI 自己分析・ 自己評価 ポイント	プラス要素	<ul style="list-style-type: none"> ・3件の契約が成立し、2件は販売に結びついている。 ・東京の店舗内で試飲販売をおこなう事により、消費者ニーズを把握できる。 ・製品管理の厳格化がより高まって来た。 ・海外、国内での商談スキルの向上 			
	マイナス要素	<ul style="list-style-type: none"> ・一部特色のあるお茶は、生産量が少ないため確保が難しくなる。 ・インターネットでのPR,販売の環境が整備されていない。 			
今後の展開方針	A	A:内容を追加するなど、更に発展させる。 B:基本的に現行方針のまま継続する。 C:事業の見直し(改善)して、継続する。 D:事業を継続しない。			
現時点で 考えている 追加、見 直し等の 内容 やるなら どうやる	<ul style="list-style-type: none"> ・台湾での販売強化(台湾CTVでのPR) ・マレーシアにおける追加商品の提案 ・米国での販売力の向上 ・EU諸国での販売商談会へ参加 				
評価・ 検証委員 の意見	特に意見なし				
評価	総合戦略のKPI達成に		<input checked="" type="checkbox"/> 有効であった ・ <input type="checkbox"/> 有効でなかった		
備考					

平成27年度実施 地方創生交付金事業 評価・検証シート

No.	9	事業名	有機農業の推進体制強化事業			所管	農林課 農務係
総合戦	基本目標	1. しらかわの宝ものをしごとに変える		施策	② 挑戦できる場の提供		
国に提出した実施計画の内容	事業概要			経費内容			
	<p>人口流出の流れが続く中、有機農業がやりたくて本町に移住し就農するという密かな逆流がある。これは有機農業者の受入に寛大な地域の存在と就農相談を行うNPOの存在によるものであることから、他地域が追随できないレベルまで有機農業による就農相談体制を強化し差別化を図る。</p>			<p><u>就農相談体制づくり:</u> ・就農相談所を設置し、NPO及び先進的有機農業者と連携した就農相談体制をつくる。</p> <p><u>就農者のサポート体制づくり:</u> ・就農希望者への研修体制、就農後のサポート体制の整備、認証制度の活用。</p> <p>・NPOへの交付金とする。</p>			
	計画事業費	1,000,000 円	交付金 充当額	800,000 円	補 足 説 明		
実績事業費	1,000,000 円	交付金 充当額	730,000 円				
事業の実施状況	計画に対し、実際には、いつ、どのように実施したか	<p>NPO法人ゆうきハートネットに交付金を交付</p> <p>H27.7 ぎふアグリチャレンジ就農フェアに参加 H27.5 オアシス21での就農相談会 1回/2月 H27.9 東京農業人フェア参加</p> <p>H27.5 大豆トラスト夏祭り H27.12 ゆうきハートネット研修会 H28.2 有機農業研修会 H28.3 有機農業（堆肥）研修会</p>					
	実施した結果、どうであったか <アウトプット>	<p>・就農相談会相談者 30名 ・新規就農者、研修者 5名</p>					

No. 9 有機農業の推進体制強化事業 (続き)

この事業 のKPI	国に提出した実施計画で設定した重要業績評価指標		計画	実績	達成度
	研修・就農相談人数		5人	20人	400%
	研修・就農開始人数		2人	5人	250%
KPI 自己分析・ 自己評価	プラス要素	<ul style="list-style-type: none"> ・オアシス21での販売取組が評価されて、就農相談者が増えている。野菜の生産から販売までの現状を知らせることができる。 ・ゆうきハートネットの組織がある事で、安心して有機農業に取り組める体制ができた。 ・後継者が育って、研修生に受入も順調に推移をしている。 			
	マイナス要素	<ul style="list-style-type: none"> ・就農者、研修者、農業体験者の受託確保は喫緊の問題である。 			
今後の展開方針	B	A:内容を追加するなど、更に発展させる。 B:基本的に現行方針のまま継続する。 C:事業の見直し(改善)して、継続する。 D:事業を継続しない。			
現時点で 考えている 追加、見 直し等の 内容 やるなら どうやる					
評価・ 検証委員 の意見	特に意見なし				
評価	総合戦略のKPI達成に		<input checked="" type="checkbox"/> 有効であった ・ <input type="checkbox"/> 有効でなかった		
備考					